

地震被害想定調査結果（ハザード関係）の 概要について

～基本的な考え方～
～強震動予測結果～
～津波浸水予測結果～

平成26年3月
三重県防災対策部

0. 1 基本的な考え方

0. 2 強震動予測結果

0. 3 津波予測結果

0. 1 基本的な考え方

今回想定する南海トラフの地震

【過去最大クラスの南海トラフ地震】

過去概ね100年から150年間隔でこの地域を襲い、揺れと津波により本県に甚大な被害をもたらしてきた、歴史的にこの地域で起こり得ることが実証されている南海トラフ地震

【理論上最大クラスの南海トラフ地震】

あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震

強震動予測において用いる強震断層モデル

以下の強震断層モデルにより、強震動予測を行い、被害想定
の基礎とする。

【南海トラフ地震】

■ 「過去最大クラス」の地震については、過去の南海トラフ地震における県内の震度分布を概ね再現すると考えられる強震断層モデルを用いる。

このモデルは、今回の三重県地震被害想定に必要な範囲で、内閣府と方針等について相談しながら設定したものである。

■ 「理論上最大クラス」の地震については、2012年8月に内閣府が公表した強震断層モデルのうち、「陸側ケース」を用いる。

【陸域の活断層】

陸域の活断層を震源とする地震については、「養老―桑名―四日市断層帯」、「布引山地東縁断層帯（東部）」、「頓宮断層」を対象とする。

津波浸水予測において用いる津波断層モデル

以下の津波断層モデルにより、津波浸水予測を行い、被害想定
の基礎とする。

【南海トラフ地震】

■「過去最大クラス」の地震については、過去の南海トラフ地震に
おける県内沿岸の津波高分布を概ね再現すると考えられる津波断層
モデルを用いる。

このモデルは、今回の三重県地震被害想定に必要な範囲で、内閣
府と方針等について相談しながら設定したものである。

■「理論上最大クラス」の地震については、2012年8月に内閣府が公
表した津波断層モデル11ケースのうち、三重県に影響のあるケース
①・②・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩を用いる。

※なお、堤防条件は、国土交通省の『津波浸水想定の設定の手引き』に基づき、
盛土構造物については、75%沈下（25%残）（河川堤防の既往地震による沈下実績における
最大沈下率）させた上で、沈下後の構造物を津波が越流した時点で、破堤するものとし
た。

0. 2 強震動予測結果

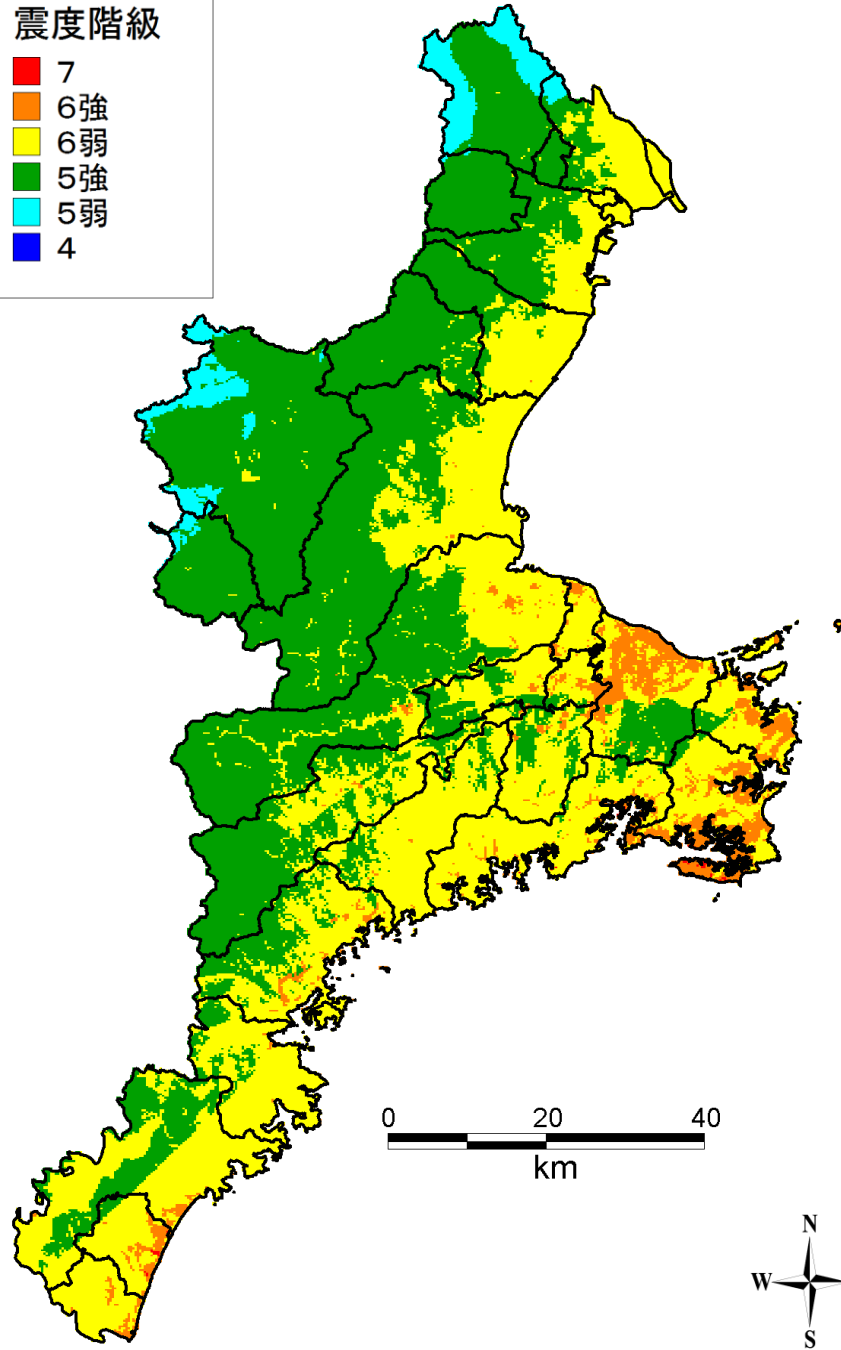
今回の地震被害想定及び既存被害想定における各市町最大震度一覧表

今回想定した地震（５ケース）のいずれかにより、すべての市町で震度６強以上（最大震度）が想定されている。

市町名	内閣府(2012) (陸側ケース)	最大震度 今回想定					三重県(2005) (東海・東南海・ 南海地震)
		南海トラフ (理論上最大)	南海トラフ (過去最大)	養老－桑名－ 四日市断層帯	布引山地東縁 断層帯(東部)	頓宮断層	
桑名市	6強	7	6弱	7	6強	5強	6弱
いなべ市	6弱	6強	6弱	7	6弱	6弱	6弱
木曽岬町	6強	7	6弱	7	6強	5強	6弱
東員町	6強	6強	6弱	7	6弱	5強	6弱
四日市市	6強	7	6強	7	6強	6弱	6弱
菰野町	6強	6強	6弱	6強	6弱	5強	6弱
朝日町	6強	6強	6弱	7	6強	5強	6弱
川越町	6強	7	6弱	7	6強	6弱	6弱
鈴鹿市	7	7	6強	7	7	5強	6強
亀山市	6強	6強	6弱	6強	6強	6弱	6強
津市	7	7	6強	6強	7	6弱	6強
松阪市	7	7	6強	6弱	7	5強	6強
多気町	7	7	6強	5強	6強	5強	6強
明和町	7	7	6強	6弱	6強	5強	6強
大台町	6強	7	6強	5強	6強	5弱	6強
伊賀市	6強	6強	6弱	6弱	6弱	6強	6弱
名張市	6弱	6強	6弱	5強	6弱	6弱	5強
伊勢市	7	7	6強	6弱	6弱	5強	6強
鳥羽市	7	7	6強	6弱	6弱	5強	7
志摩市	7	7	7	5強	6弱	5弱	7
玉城町	7	7	6強	5強	6弱	5強	6強
南伊勢町	7	7	7	5強	6弱	5弱	7
大紀町	7	7	6強	5強	6強	5弱	6強
度会町	7	7	6強	5強	6強	5強	6強
尾鷲市	7	7	6強	4	5弱	4	6強
紀北町	7	7	6強	5弱	6弱	5弱	6強
熊野市	7	7	7	4	5弱	4	6強
御浜町	7	7	7	4	5弱	4	6強
紀宝町	7	7	6強	4	4	4	6強

過去最大クラスの南海トラフ地震による強震動予測結果（概観）

震度階級

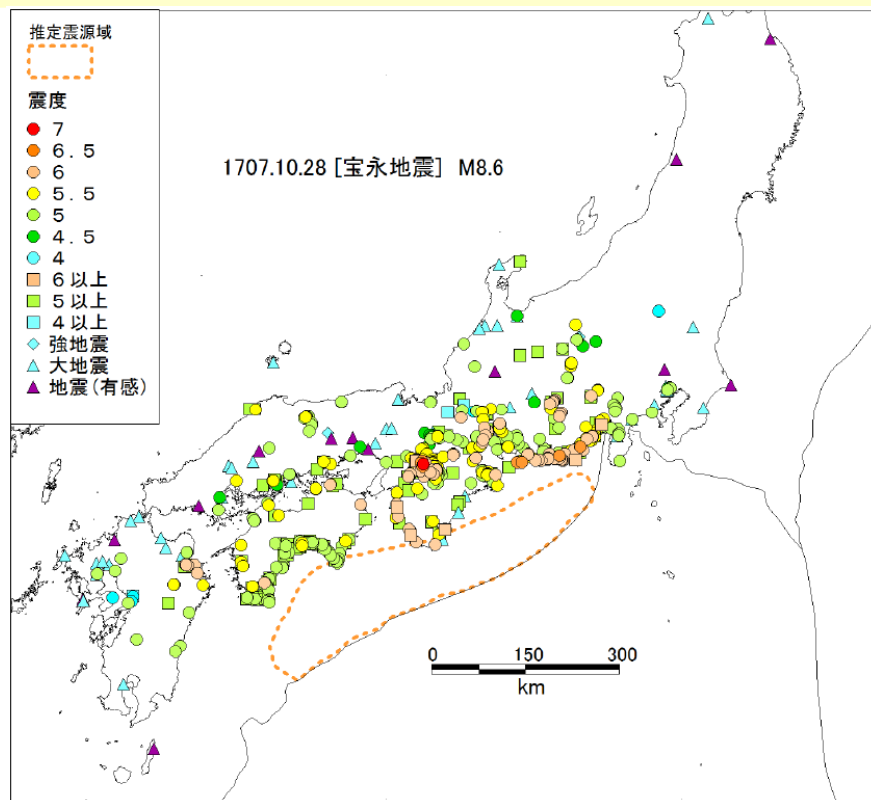


- 三重県南部の大半と、県内の人口が集中する伊勢湾沿岸部では、震度6弱が想定されている。
- 伊勢志摩の沿岸部を中心として、震度6強が想定されている。

	南海トラフ地震(過去最大クラス)						
	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
面積 (km ²)	0.00	0.00	191.47	2,843.87	2,449.16	287.18	5.63
面積割合 (%)	—	—	3.3%	49.2%	42.4%	5.0%	0.1%

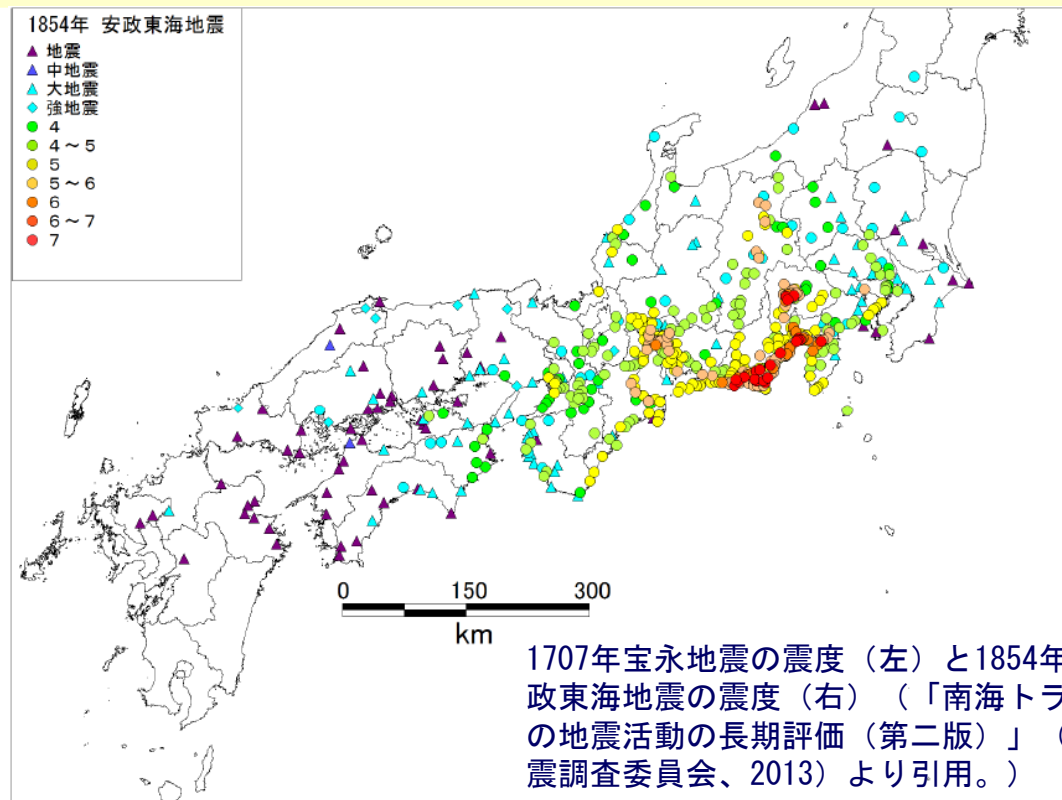
過去最大クラスの南海トラフ地震による強震動予測結果 ～歴史地震との比較～

想定結果は、歴史史料から推定される1707年宝永地震や1854年安政東海地震での県内各地の震度と概ね整合している。



[1707年宝永地震]

長島：5～6、桑名：6、朝日：5～6、四日市：6～7、
菰野：5、神戸（鈴鹿）：5～6、亀山：5～6、津：6、
久居：5～6、松阪：6、上野：5～6、
山田・河崎・船江：5～6、鳥羽：5～6、国府：5～6、
海山：5～6、尾鷲：6～7

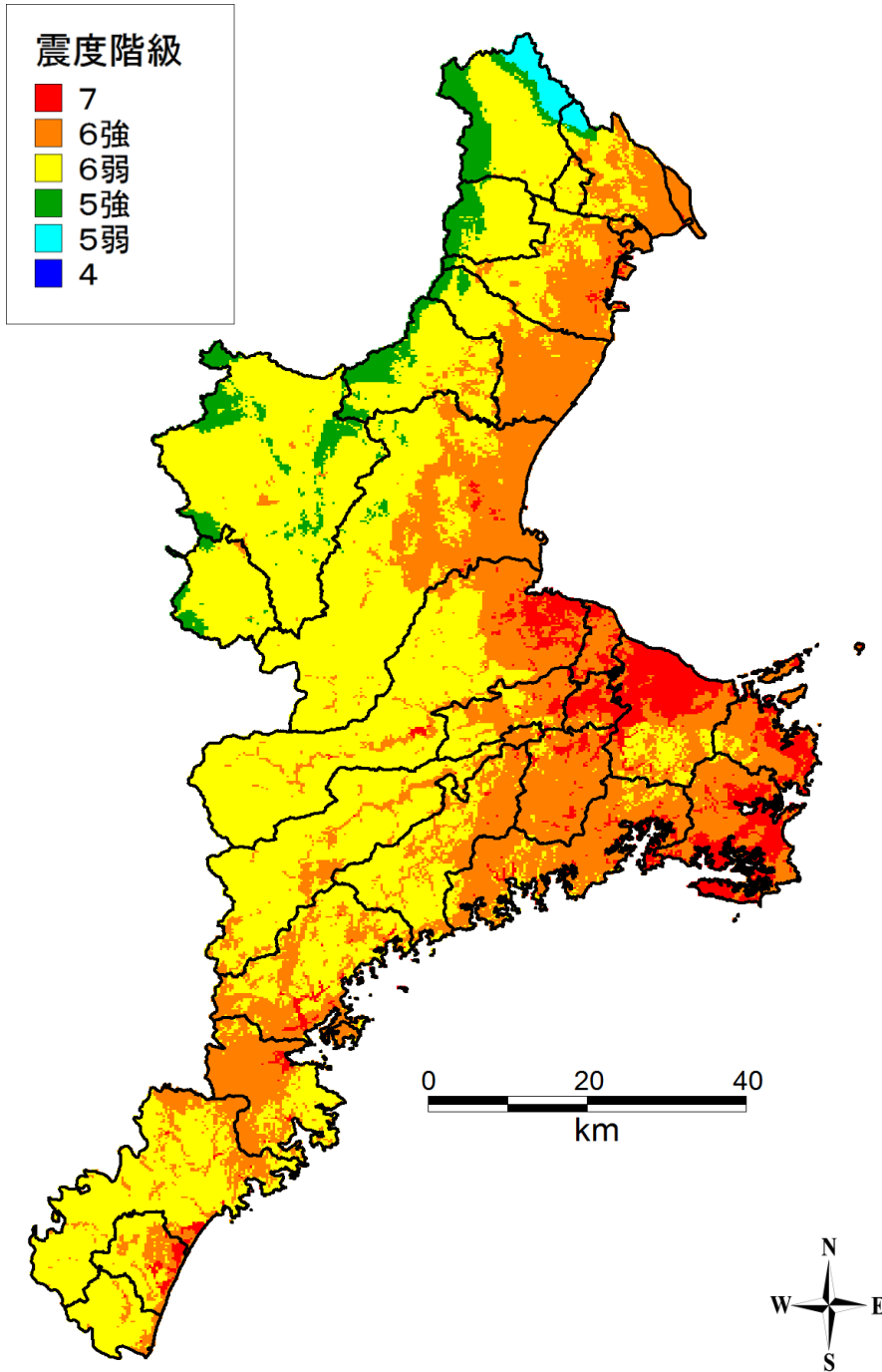


[1854年安政東海地震]

長島：6、桑名：5、四日市：5～6、
神戸（鈴鹿）：4～5、亀山：5、津：5～6、
久居：6、松阪：5～6、相可：4～5、上野：4～5、
山田：6、宇治：4～5、大湊：5～6、鳥羽：5、
国府：6、和具：5～6、越賀：7、古和浦：5
長島：5、尾鷲：5

1707年宝永地震の震度（左）と1854年安政東海地震の震度（右）（「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」（地震調査委員会、2013）より引用。）

理論上最大クラスの南海トラフ地震による強震動予測結果（概観）

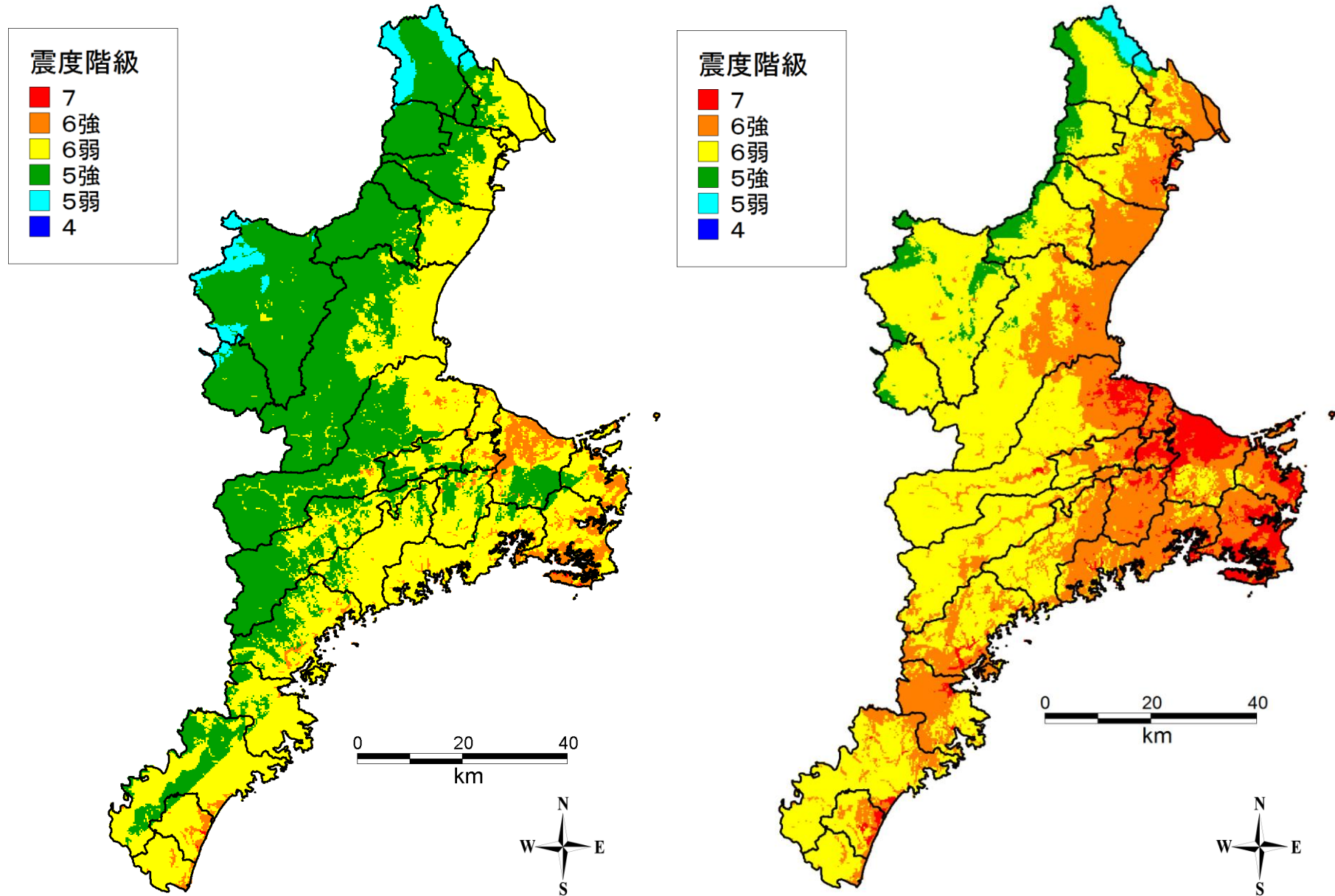


- 県内のほぼ全域で震度 6 弱以上が想定されている。
- 三重県南部の大半と、県内の人口が集中する伊勢湾沿岸部では、震度 6 強が想定されている。
- 伊勢志摩の沿岸部を中心として、震度 7 が想定されている。

	南海トラフ地震(理論上最大クラス)						
	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
面積 (km ²)	0.00	0.00	44.43	261.44	3,163.97	1,919.29	388.19
面積割合 (%)	—	—	0.8%	4.5%	54.8%	33.2%	6.7%

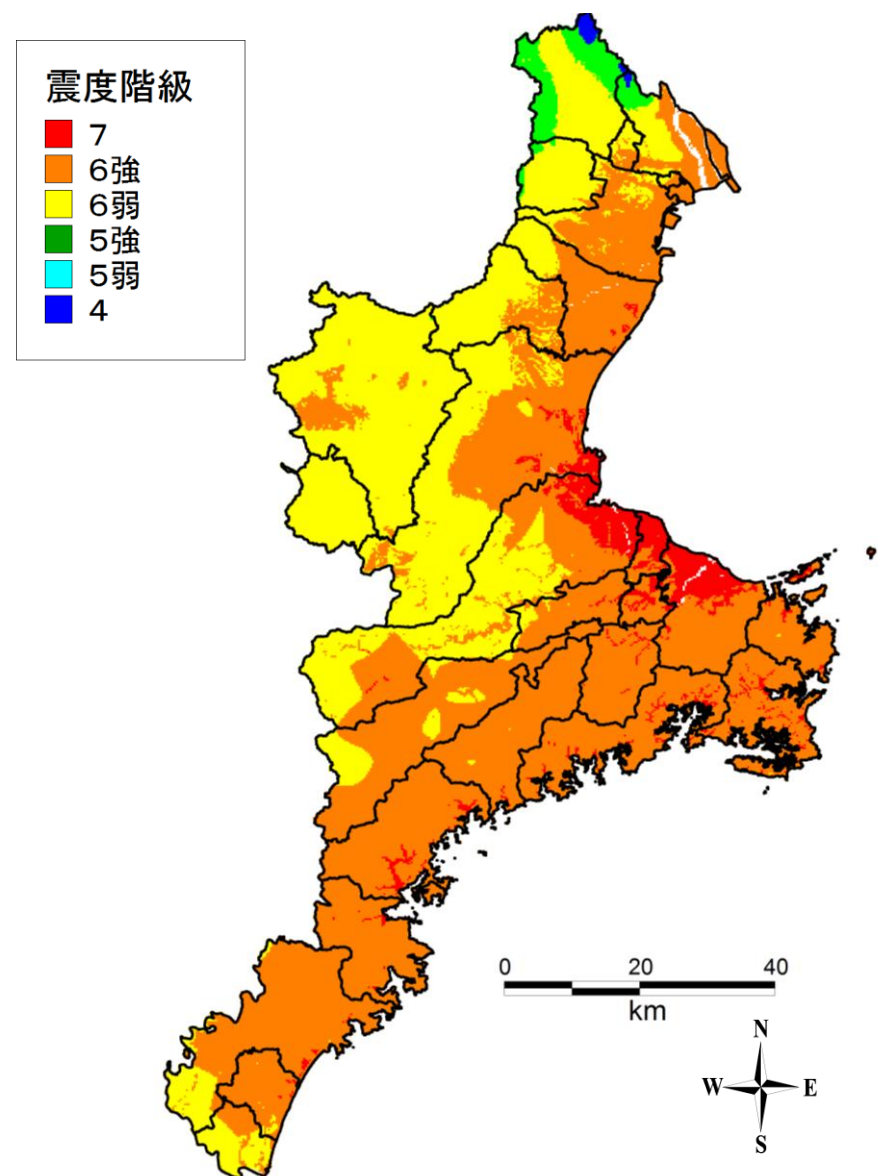
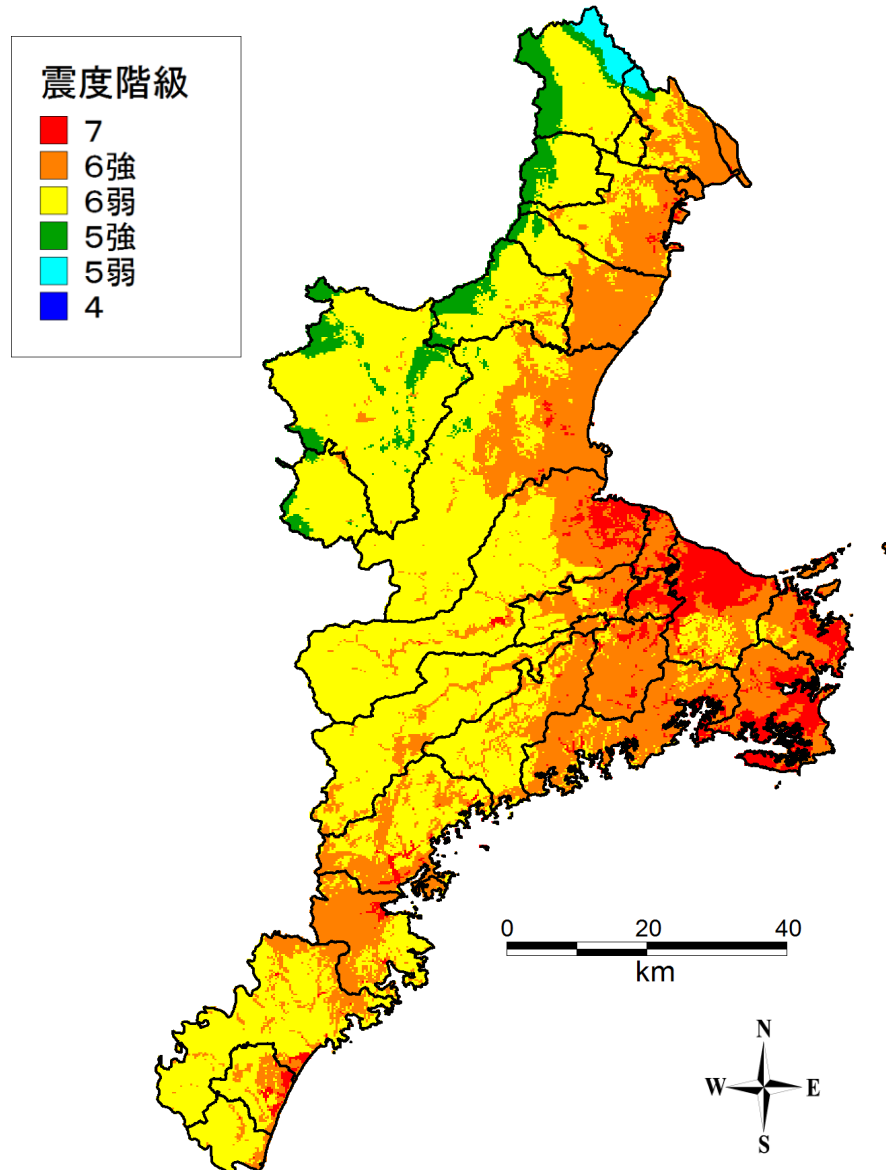
過去最大クラス（左）と理論上最大クラス（右）南海トラフ地震による強震動の比較

過去最大クラスの地震で震度6弱以上が想定されている地域の大半において、理論上最大クラスの地震では、震度6強または7が想定されている。



理論上最大クラス（今回）（左）と内閣府最大クラス（右）の強震動の比較

震度階級ごとの県内の分布傾向はほとんど変わらない。今回の県想定の方が、内閣府公表結果（平成24年8月）に比較して、震度6強の範囲が若干縮小する一方、震度7の範囲は伊勢志摩地域で拡大している。

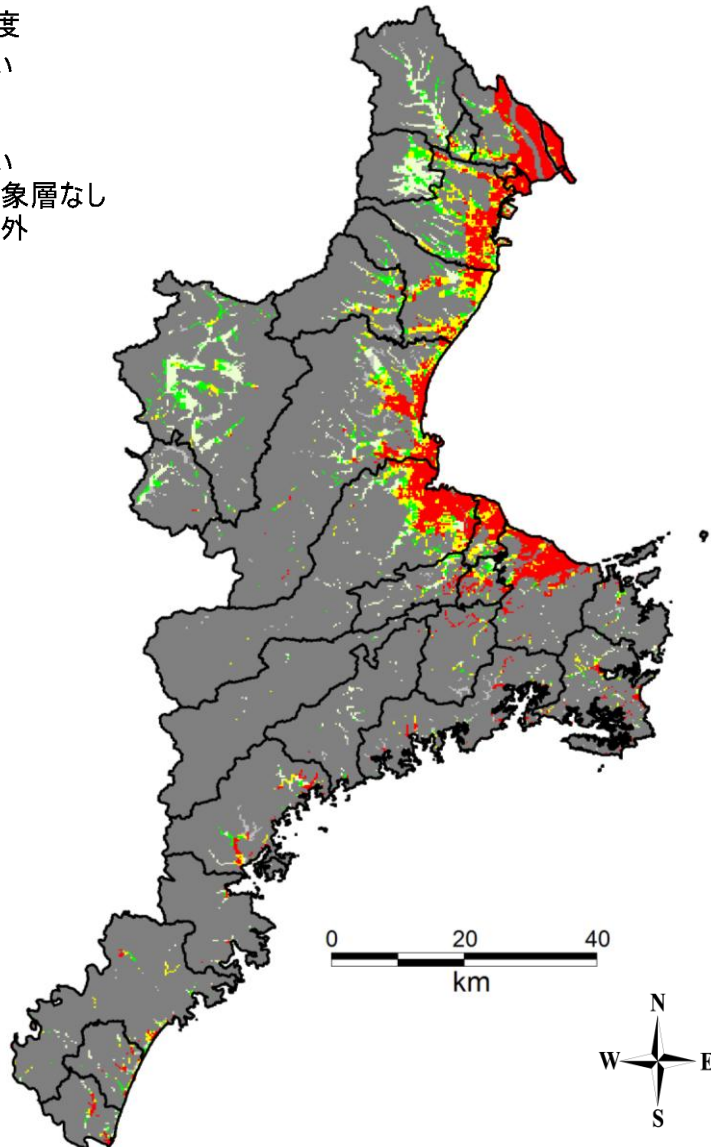


過去最大クラス（左）と理論上最大クラス（右）南海トラフ地震による液状化の比較

いずれのクラスの地震でも、液状化危険度が極めて高い範囲の県内の分布傾向はほとんど変わらない。液状化危険度が極めて高い範囲は、新しい時代の堆積物が厚く堆積している伊勢平野内の伊勢湾沿岸部に集中している。

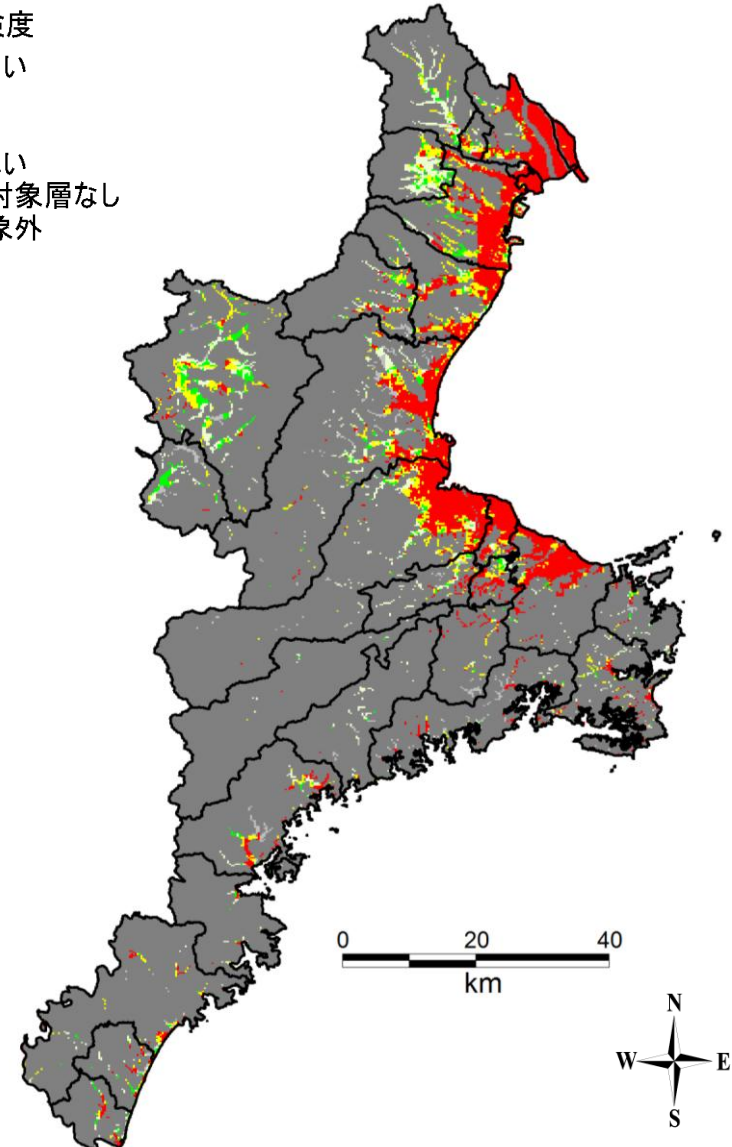
液状化危険度

- 極めて高い
- 高い
- 低い
- 極めて低い
- 液状化対象層なし
- 計算対象外

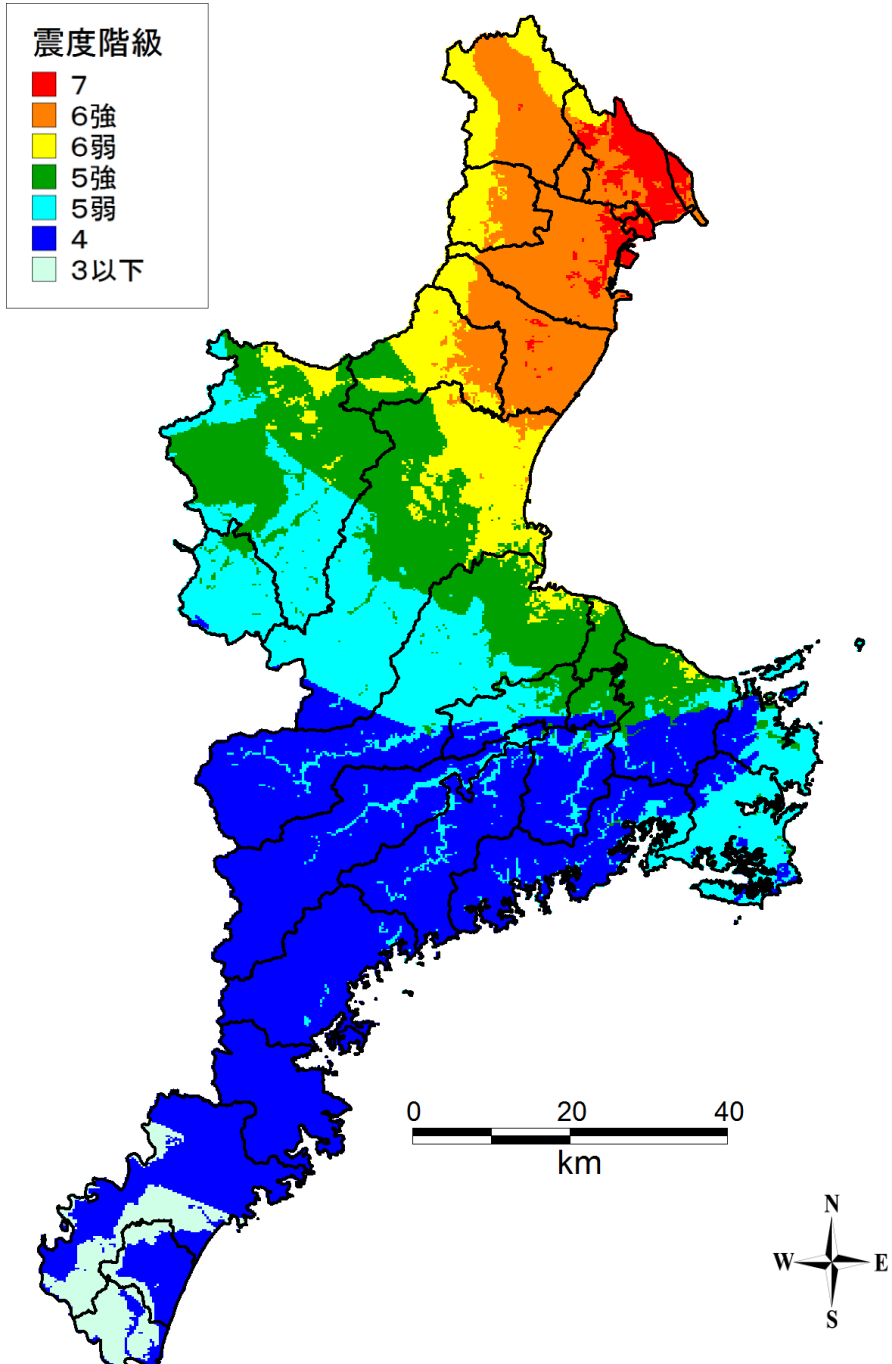


液状化危険度

- 極めて高い
- 高い
- 低い
- 極めて低い
- 液状化対象層なし
- 計算対象外



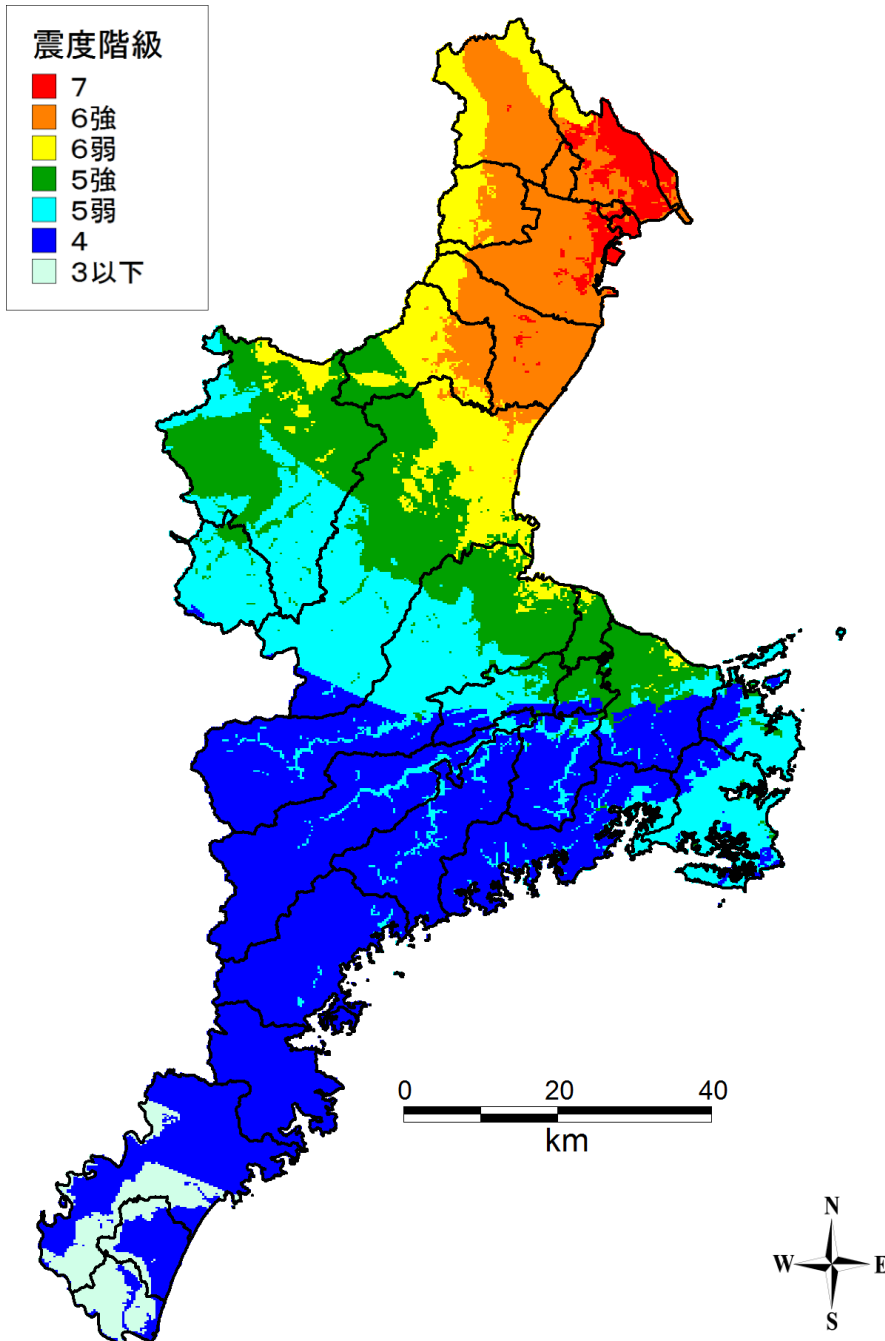
養老－桑名－四日市断層帯を震源とする地震による強震動予測結果（概観）



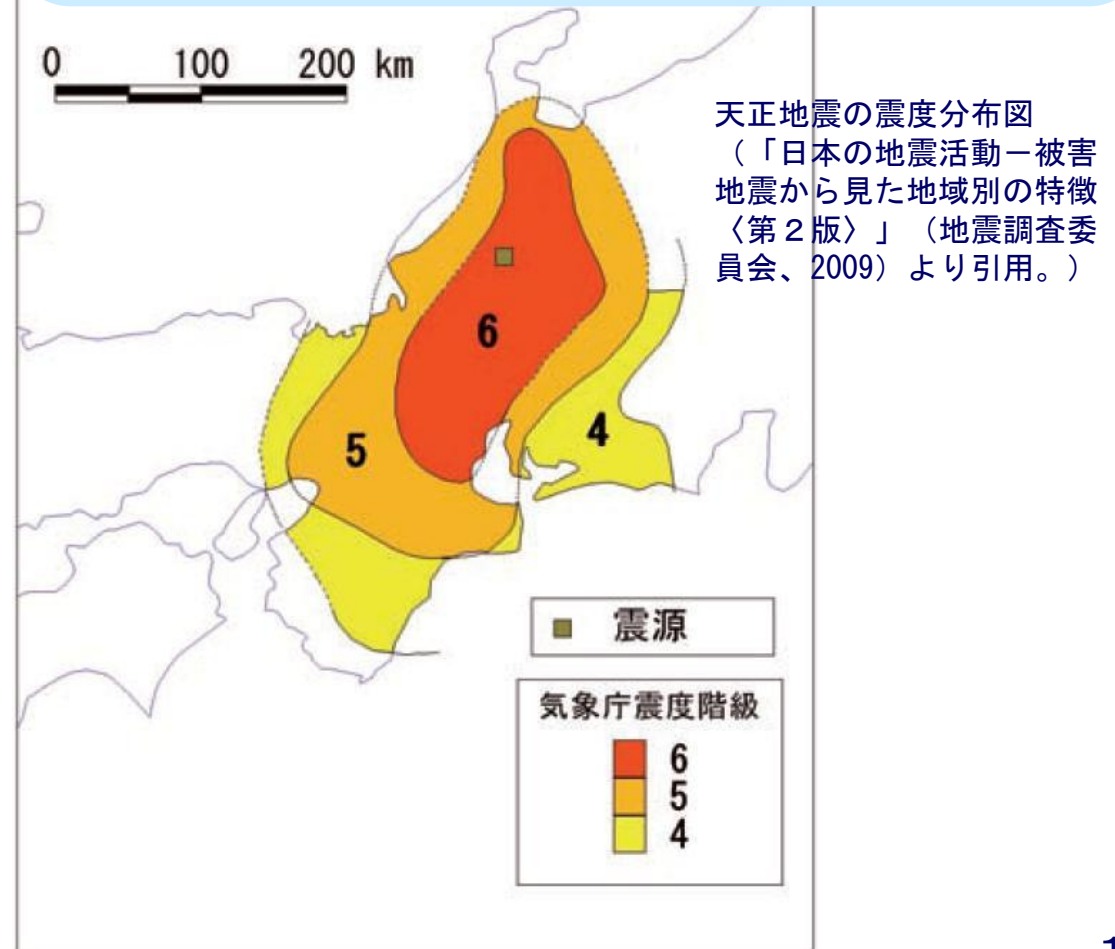
- 北勢地域の大半で、震度6強以上が想定されている。
- 断層近傍では、震度7が想定されている。

	養老－桑名－四日市断層帯						
	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
面積 (km ²)	204.92	2,119.87	1,143.56	975.84	534.11	669.66	129.35
面積割合 (%)	3.6%	36.7%	19.8%	16.9%	9.2%	11.6%	2.2%

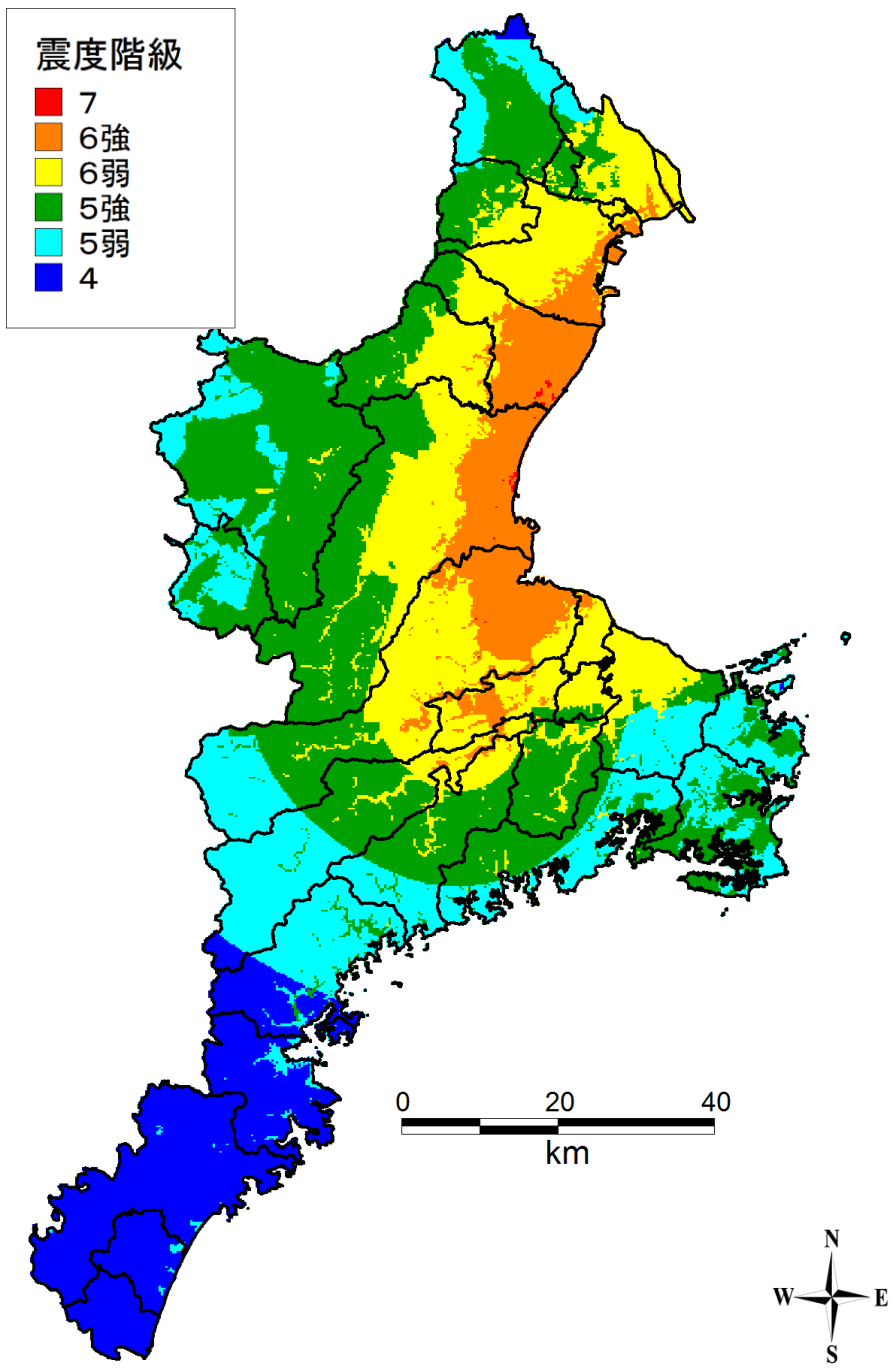
養老－桑名－四日市断層帯を震源とする地震による強震動予測結果 ～歴史地震との比較～



■養老－桑名－四日市断層帯が活動した可能性があると考えるも指摘（例えば、宇佐美（2003））されている1586年天正地震において、歴史史料から推定されている震度6以上の範囲と今回の想定結果は概ね整合的である。



布引山地東縁断層帯（東部）を震源とする地震による強震動予測結果（概観）

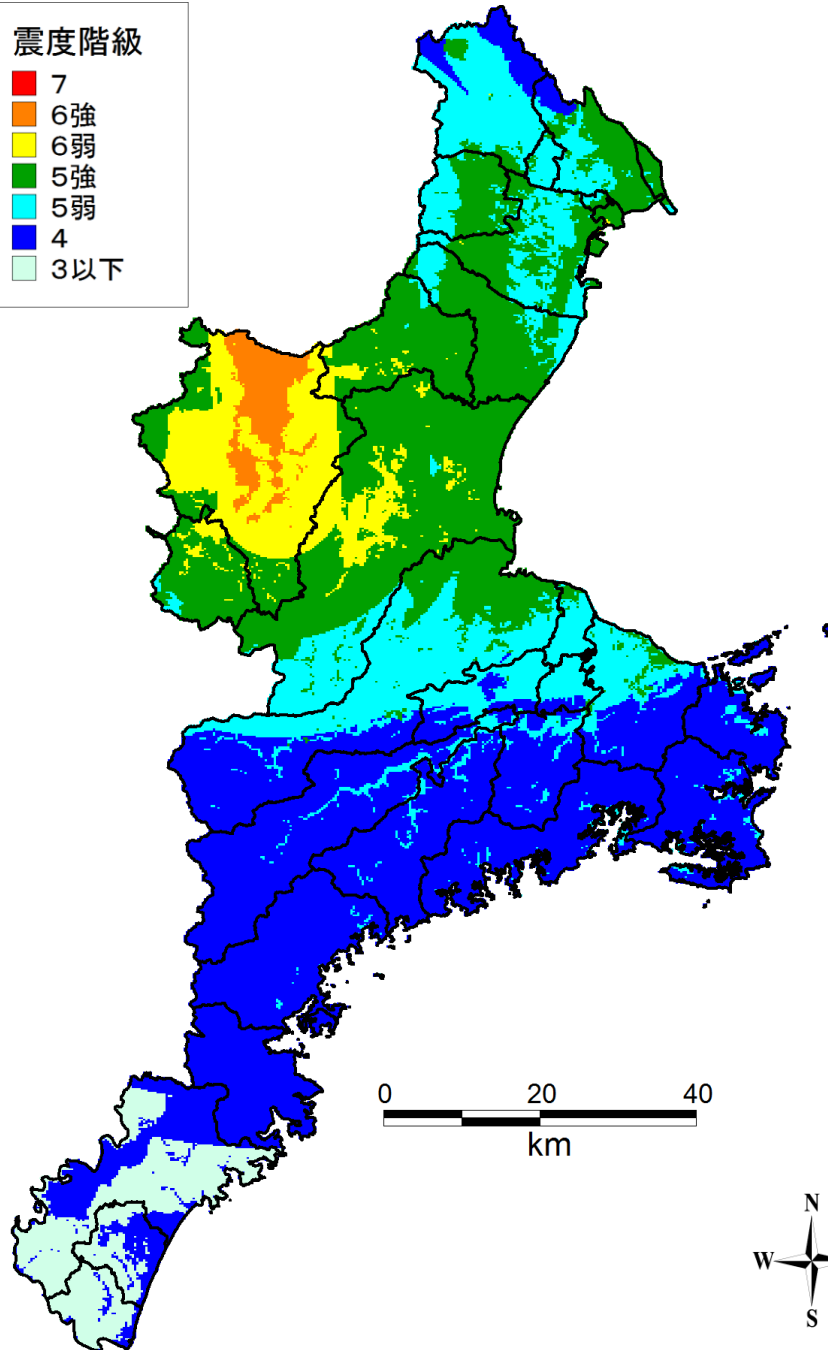


■北勢から中勢にかけての伊勢湾沿岸部を中心とした地域で、震度6強以上が想定されている。
■伊勢湾沿岸部の断層近傍のごく一部では、震度7が想定されている。

	布引山地東縁断層帯(東部)						
	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
面積 (km ²)	0.00	831.17	1,154.30	1,991.49	1,236.28	558.48	5.59
面積割合 (%)	—	14.4%	20.0%	34.5%	21.4%	9.6%	0.1%

頓宮断層を震源とする地震による強震動予測結果（概観）

震度階級



■伊賀地域を中心とした地域で、震度6弱以上が想定されている。

■断層近傍では、震度6強が想定されている。

	頓宮断層						
	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
面積 (km ²)	340.49	2,221.54	1,115.89	1,543.25	436.18	119.95	0.00
面積割合 (%)	5.9%	38.5%	19.3%	26.7%	7.5%	2.1%	—

活断層を震源とする地震による液状化の比較

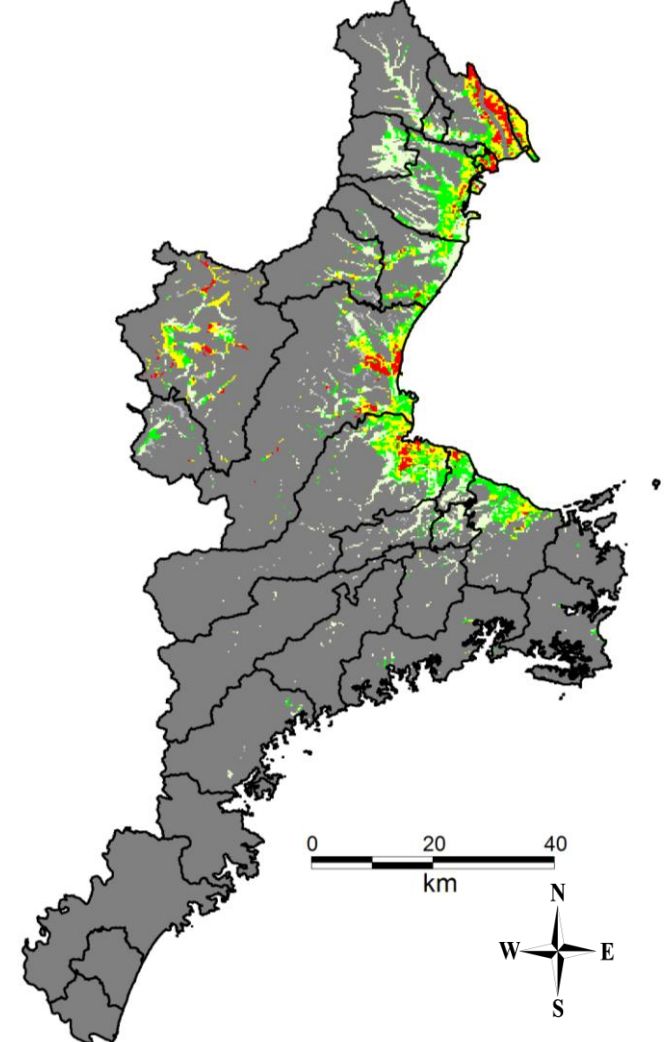
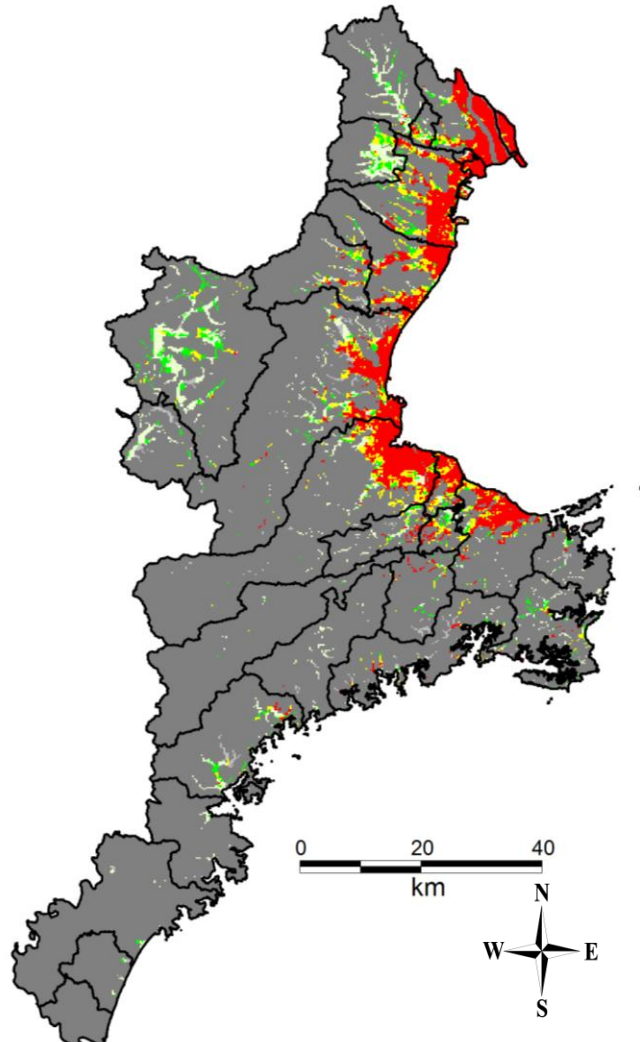
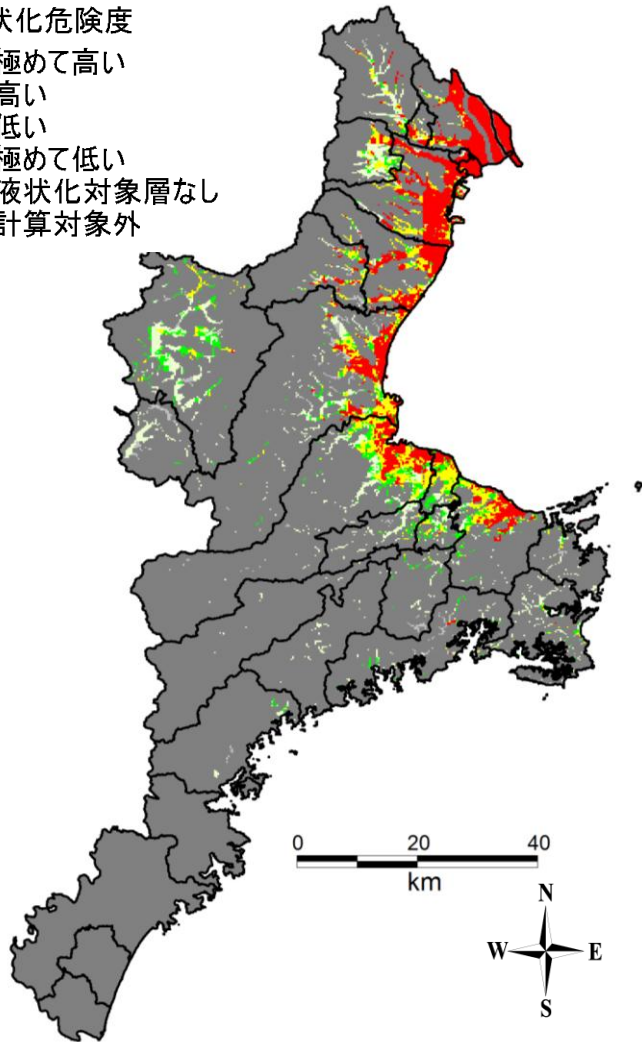
■養老－桑名－四日市断層帯（図左）、布引山地東縁断層帯（東部）（図中）いずれも、伊勢平野内の伊勢湾沿岸部に、液状化危険度が極めて高い範囲が広がっている。

■頓宮断層（図右）の場合、伊賀地域内の断層近傍だけでなく、伊勢湾沿岸部にも、液状化危険度が極めて高い範囲が広がっている。

※なお、木津川断層帯が活動したと考えられている1854年安政伊賀上野地震において、伊賀上野付近だけでなく、四日市付近でも被害が大きかった、とする既存研究成果（例えば、宇佐美（2003））もある。

液状化危険度

- 極めて高い
- 高い
- 低い
- 極めて低い
- 液状化対象層なし
- 計算対象外



0. 3 津波予測結果

過去最大クラスの南海トラフ地震による 沿岸評価点における津波到達時間

【20cm津波到達時間】

■各評価点において、20cmの津波（津波注意報基準の下限值）到達までに要する時間は概ね、松阪市以北で60分以上、明和町以南の伊勢湾内で20～30分程度、熊野灘沿岸では、英虞湾内や五ヶ所湾奥などを除いて20分以内である。

■特に到達が早いのは、尾鷲市以南と志摩半島東岸から志摩半島の先端付近にかけてで、5分以内の評価点がみられる。

※詳細な数値は、別添「過去最大クラスの南海トラフ地震による沿岸評価点における20cm津波到達時間及び最大津波高一覧表」参照。

過去最大クラスの南海トラフ地震による 沿岸評価点における最大津波高

【最大津波高】

- 各評価点における最大津波高は概ね、松阪市以北で3～4m、明和町以南の伊勢湾内で5～6m、熊野灘沿岸の大半で6m以上である。
- 志摩半島先端付近の一部や東紀州地域では、10m近くに達しているところがみられ、5評価点で10mを超えている。
- すべての評価点の中での最大は、「志摩市志摩町越賀」の11.7mである。

※詳細な数値は、別添「過去最大クラスの南海トラフ地震による沿岸評価点における20cm津波到達時間及び最大津波高一覧表」参照。

今回検討、作成した津波浸水予測図

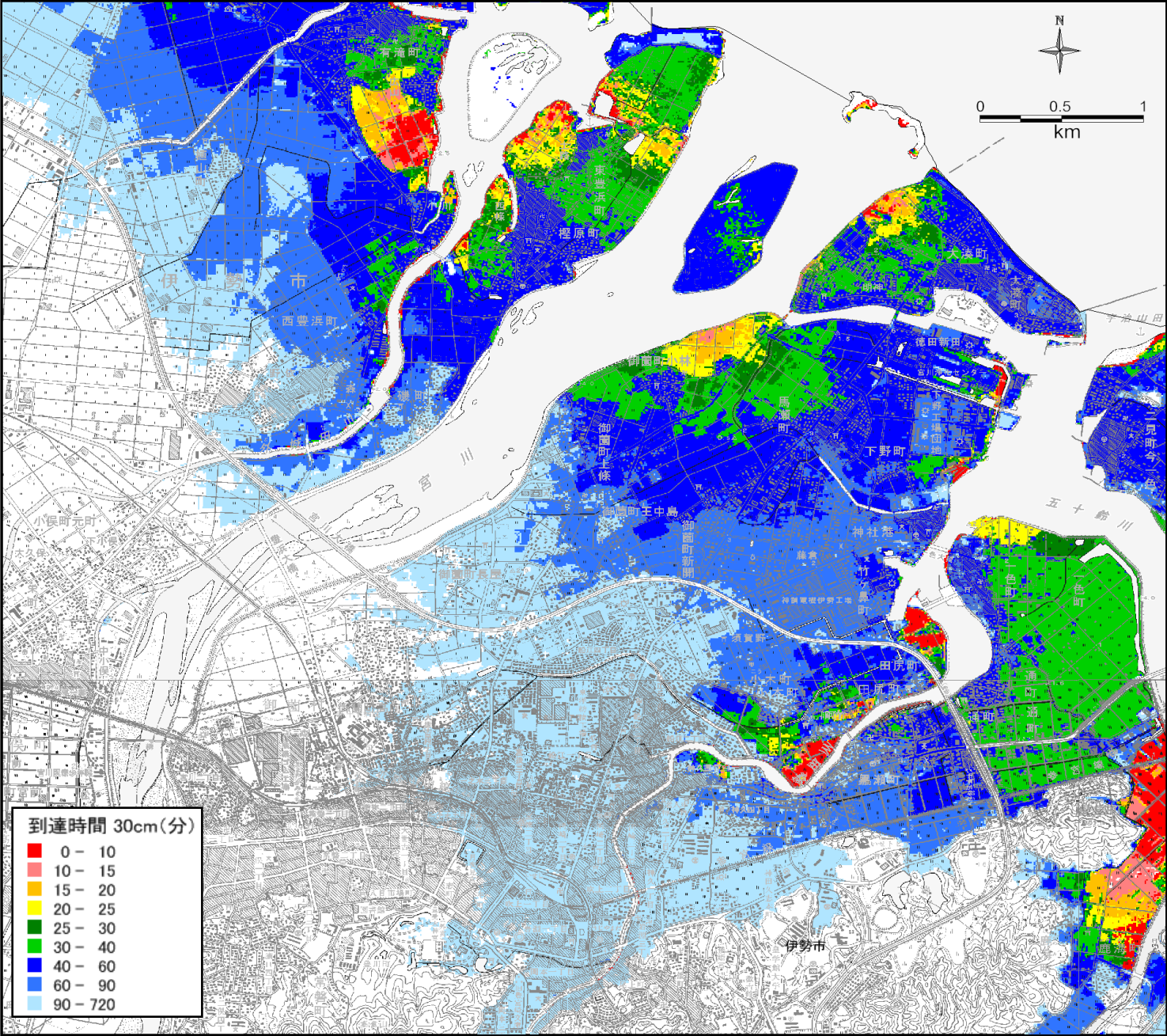
【津波浸水深30cm到達時間分布図】

従来型の津波浸水予測図に加えて、地域での津波避難のより具体的な検討の場において活用することを目的として、避難行動をとれなくなる一つの目安とされている「津波浸水深30cm」に、どの場所がどのくらいの時間で達するかをその時間に応じて色分けした予測図を作成する。「津波からいつまでにどの方向に避難しなければいけないか」の目安となる情報に相当する。

【津波浸水予測図】

南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合に、そのような地震に伴う津波によって、どのくらい浸水するかをその深さに応じて色分けした予測図を作成する。「津波からどのあたりまで避難しなければいけないか」の目安となる情報に相当する。

津波浸水深30cm到達予測時間分布図 伊勢市（2）



いつまでにどの方向に避難しなければいけないかを確認しましょう！

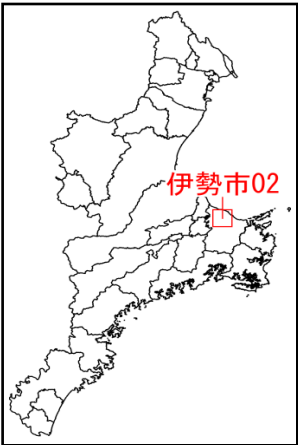
- この図は、津波からの避難行動がとれなく（動くことができなく）なる一つの目安とされている津波浸水深30cmに、どの場所がどのくらいの時間で達するかをその時間に応じて色分けして示しています。
- 揺れによって堤防などが沈下し、津波が来る前に水が入ってくる可能性のある地域もあります。
- お住まいの地域がどのくらいの時間で浸水するかを確認しましょう！

想定はあくまで「一つの目安」です！

- 南海トラフで過去繰り返し発生してきた地震は、地震が起こった場所や、揺れや津波の分布などが、地震ごとに異なっていることがわかっています。
- 地震が起こる場所や、地震が起こったときの建物の状況などによって、この図で示した予測時間よりも早く浸水が始まる可能性があります。予測時間はあくまで一つの目安として考えてください。
- 川をさかのぼった津波が街なかに入ってきたり、排水溝など思いがけない場所から、津波が入ってくることもあります。

この図の前提となっている地震

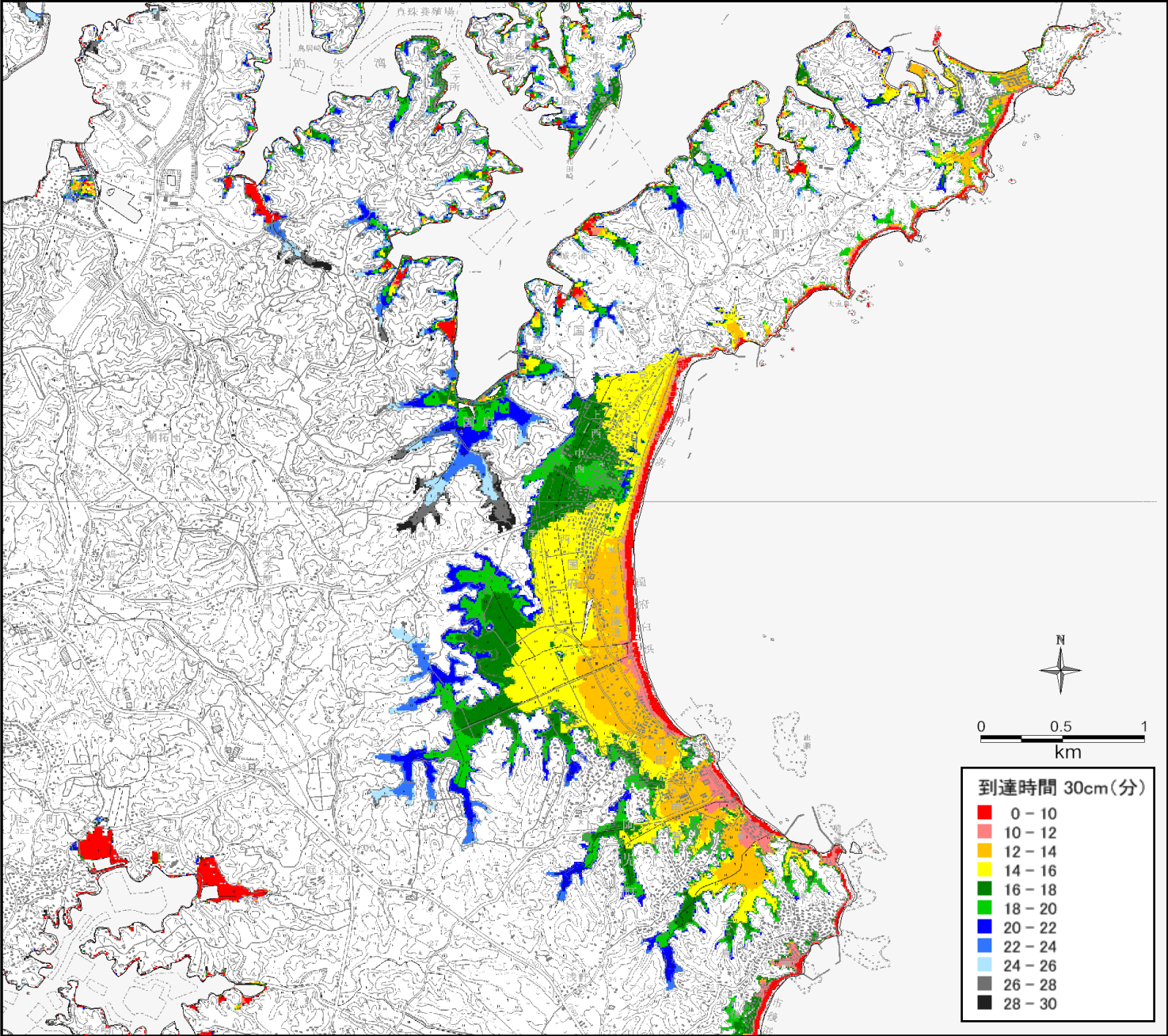
- 過去に発生した記録は残っていないものの、科学的には南海トラフで発生する可能性がある「最大クラス」の地震を想定し、そのような地震に伴う津波が満潮時に発生した場合の到達予測時間分布図を作成しました。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情複、第813号)
承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。
この津波浸水予測図は、国土地理院の『東日本大震災からの復旧・復興及び防災対策のための高精度標高データ』に関する資料を使用して作成した。
この図面の基図として用いている地図には、市町村合併前の地名が記載されている場合がありますので、ご了承ください。

津波浸水深30cm到達予測時間分布図 志摩市（2）

[ご注意]この図には、30分以内に30cm以上浸水すると予測される範囲のみを着色しています。



いつまでにどの方向に避難しなければいけないかを確認しましょう！

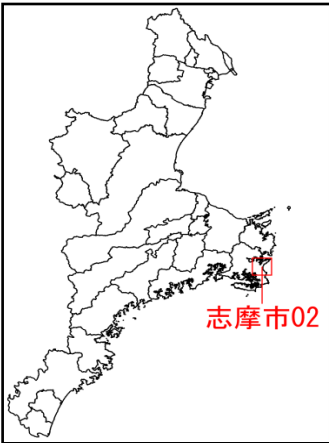
- この図は、津波からの避難行動がとれなく（動くことができなく）なる一つの目安とされている津波浸水深30cmに、どの場所がどのくらいの時間で達するかをその時間に応じて色分けして示しています。
- 揺れによって堤防などが沈下し、津波が来る前に水が入ってくる可能性のある地域もあります。
- お住まいの地域がどのくらいの時間で浸水するかを確認しましょう！

想定はあくまで「一つの目安」です！

- 南海トラフで過去繰り返し発生してきた地震は、地震が起こった場所や、揺れや津波の分布などが、地震ごとに異なっていることがわかっています。
- 地震が起こる場所や、地震が起こったときの建物の状況などによって、この図で示した予測時間よりも早く浸水がはじまる可能性があります。予測時間はあくまで一つの目安として考えてください。
- 川をさかのぼった津波が街なかに入ってきたり、排水溝など思いがけない場所から、津波が入ってくることもあります。

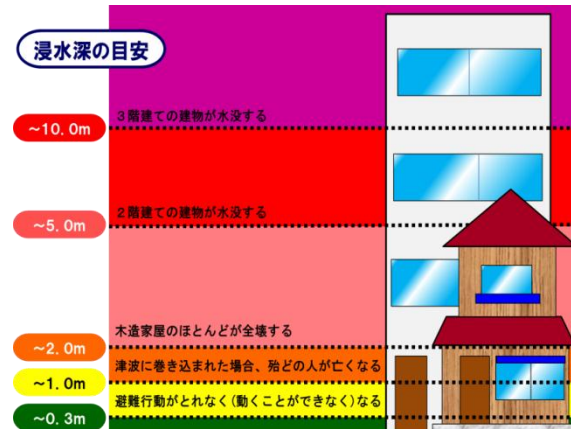
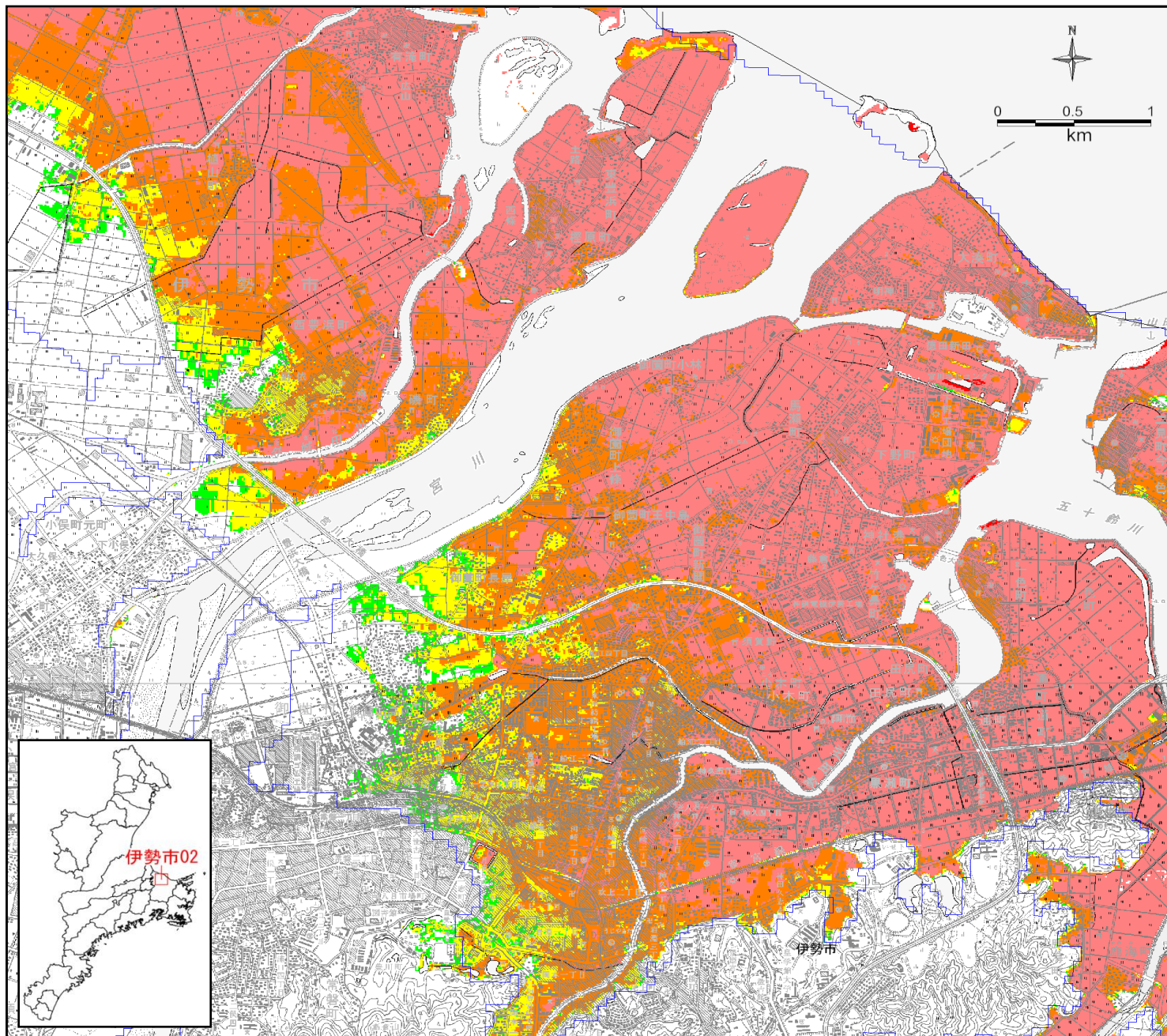
この図の前提となっている地震

- 過去に発生した記録は残っていないものの、科学的には南海トラフで発生する可能性がある「最大クラス」の地震を想定し、そのような地震に伴う津波が満潮時に発生した場合の到達予測時間分布図を作成しました。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情複、第813号)
承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。
この津波浸水予測図は、国土地理院の『東日本大震災からの復旧・復興及び防災対策のための高精度標高データ』に関する資料を使用して作成した。
この図面の基図として用いている地図には、市町村合併前の地名が記載されている場合がありますので、ご了承ください。

津波浸水予測図 伊勢市（2）



どのあたりまで避難しなければいけないかを確認しましょう！

■この図は、津波によってどのくらい浸水するかをその深さに応じて色分けして示しています。
 ■お住まいの地域がどのくらい浸水する可能性があるか、どこまで避難する必要があるかを確認しましょう！

想定はあくまで「一つの目安」です！

■南海トラフで過去繰り返し発生してきた地震は、地震が起こった場所や、揺れや津波の分布などが、地震ごとに異なっていることがわかっています。
 ■地震が起こる場所や、地震が起こったときの建物の状況などによって、この図で色が塗られていない場所でも浸水が発生したり、浸水がさらに深くなったりする場合があります。この図で示されている浸水範囲や浸水深は、あくまで一つの目安として考えてください。

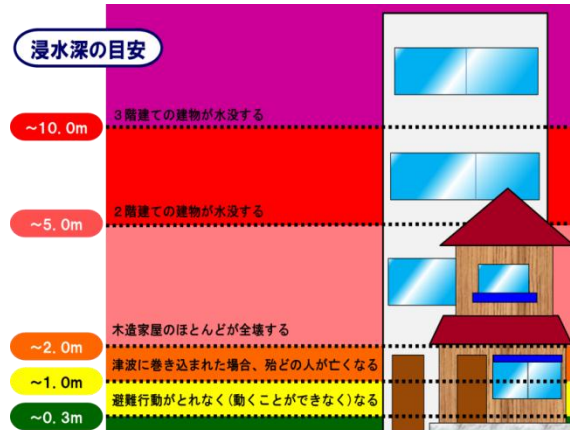
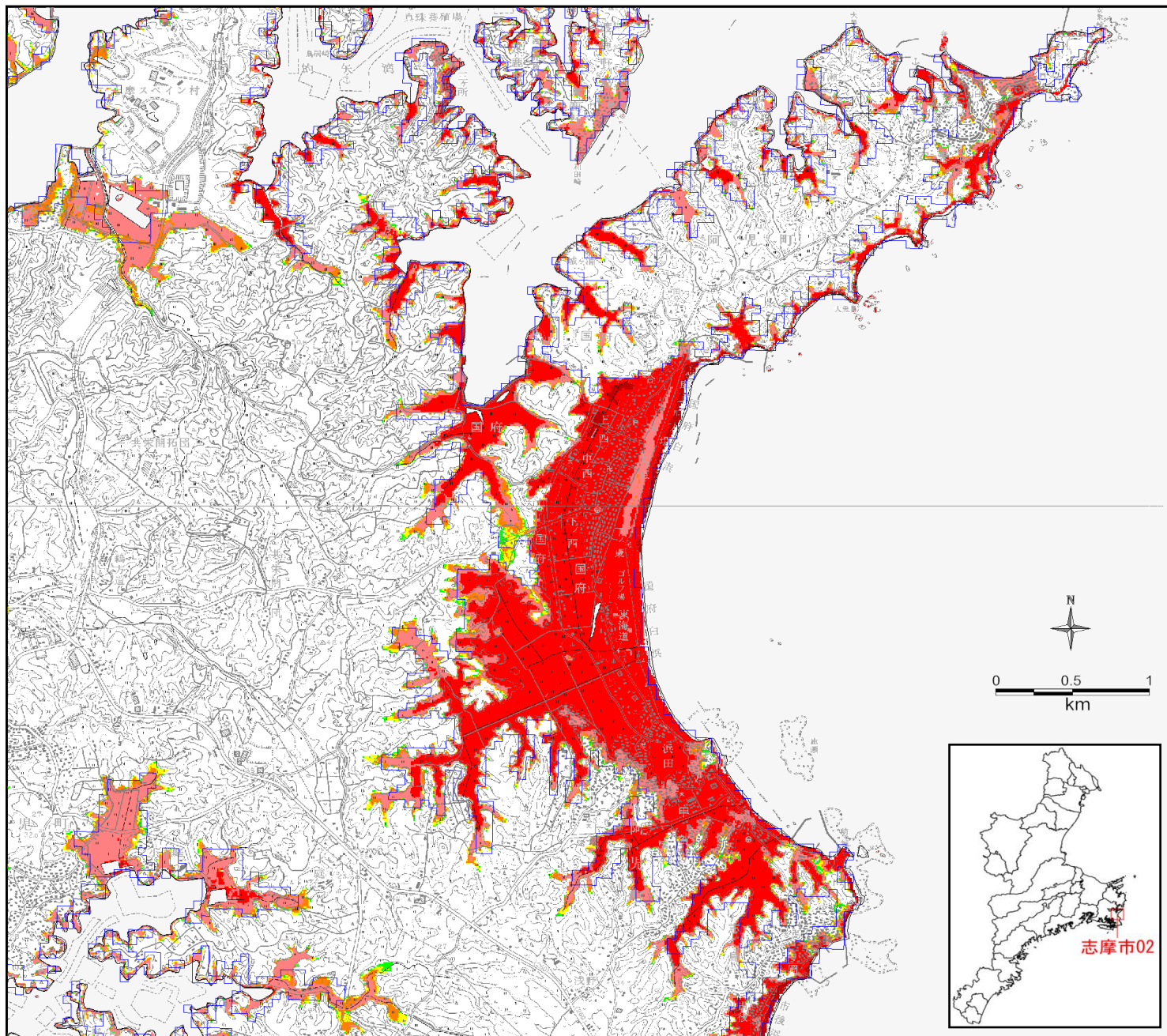
この図の前提となっている地震

■過去に発生した記録は残っていないものの、科学的には南海トラフで発生する可能性がある「最大クラス」の地震を想定し、そのような地震に伴う津波が満潮時に発生した場合の浸水予測図を作成しました。

最大浸水深 (m)		平成23年度三重県 津波浸水予測範囲
20	50	
10	20	
5	10	
2	5	
1	2	
0.3	1	
0.01	0.3	

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情複、第813号)
 承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。
 この津波浸水予測図は、国土地理院の『東日本大震災からの復旧・復興及び防災対策のための高精度標高データ』に関する資料を使用して作成した。
 この図面の基図として用いている地図には、市町村合併前の地名が記載されている場合がありますので、ご了承ください。

津波浸水予測図 志摩市（2）



どのあたりまで避難しなければいけないかを確認しましょう！

■この図は、津波によってどのくらい浸水するかをその深さに応じて色分けして示しています。
 ■お住まいの地域がどのくらい浸水する可能性があるか、どこまで避難する必要があるかを確認しましょう！

想定はあくまで「一つの目安」です！

■南海トラフで過去繰り返し発生してきた地震は、地震が起こった場所や、揺れや津波の分布などが、地震ごとに異なっていることがわかっています。
 ■地震が起こる場所や、地震が起こったときの建物の状況などによって、この図で色が塗られていない場所でも浸水が発生したり、浸水がさらに深くなったりする場合があります。この図で示されている浸水範囲や浸水深は、あくまで一つの目安として考えてください。

この図の前提となっている地震

■過去に発生した記録は残っていないものの、科学的には南海トラフで発生する可能性がある「最大クラス」の地震を想定し、そのような地震に伴う津波が満潮時に発生した場合の浸水予測図を作成しました。

最大浸水深 (m)		
20	～ 50	
10	～ 20	
5	～ 10	
2	～ 5	
1	～ 2	
0.3	～ 1	
0.01	～ 0.3	

平成23年度三重県
津波浸水予測範囲

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情複、第813号)
 承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。
 この津波浸水予測図は、国土地理院の『東日本大震災からの復旧・復興及び防災対策のための高精度標高データ』に関する資料を使用して作成した。
 この図面の基図として用いている地図には、市町村合併前の地名が記載されている場合がありますので、ご了承ください。

南海トラフ地震による津波浸水予測結果（概観）

～津波浸水面積～

■理論上最大クラスの南海トラフ地震を想定した場合の三重県内での津波浸水面積は、約28,000haである。

■平成24年8月に公表された内閣府（2012）の津波浸水予測結果と比較した場合、今回の計算結果は、内閣府（2012）の浸水面積から2倍程度に拡大している。

熊野灘沿岸では浸水面積はほとんど変わらないが、伊勢湾沿岸で拡大幅が大きく、概ね2～3倍程度に拡大している。

■過去最大クラスの南海トラフ地震を想定した場合の三重県内での津波浸水面積は、約23,000haである。

地域区分	理論上最大			過去最大
	浸水面積 (ha)		三重県／内閣府	浸水面積 (ha)
	三重県	内閣府		三重県
北勢	8,210.93	480	17.11	6,640.09
中勢	8,873.34	3,690	2.40	7,557.09
伊勢志摩	8,768.50	7,670	1.14	7,509.06
東紀州	2,515.38	2,400	1.05	1,675.69
計	28,368.15	14,250	1.99	23,381.93
伊勢湾沿岸(伊勢市以北)	20,856.82	7,320	2.85	17,903.40
熊野灘沿岸(鳥羽市以南)	7,511.33	6,920	1.09	5,478.53

今回の津波浸水予測結果において、伊勢湾沿岸の浸水面積が拡大しているのは、防潮堤の沈下などを考慮した堤防条件に変更したことが大きく影響しているものと考えられる。

南海トラフ地震による津波浸水予測結果（概観）

～津波浸水深区分ごとの面積割合～

- 津波浸水深区分ごとの面積割合に、地震規模（理論上最大、過去最大）による大きな変化はみられない。
- 今回の計算結果では、「浸水深2m以上」の面積割合は、熊野灘沿岸でより大きくなっている。
- 内閣府（2012）の津波浸水予測結果と比較した場合、熊野灘沿岸での津波浸水深区分ごとの面積割合は、ほぼ同様の傾向である。伊勢湾内では「30cm以上～1m未満」及び「1m以上～2m未満」の面積割合が減少する一方、「2m以上」の浸水面積の割合が増加している。

浸水深区分		浸水深1cm以上～ 30cm未満		浸水深30cm以上～ 1m未満		浸水深1m以上～ 2m未満		浸水深2m以上	
地域区分／ケース		理論上最大	過去最大	理論上最大	過去最大	理論上最大	過去最大	理論上最大	過去最大
伊勢湾沿岸 （伊勢市以北）	三重県 (ha)	1,290.83	1,425.83	4,068.37	3,845.55	6,174.27	5,139.92	9,323.35	7,492.10
	内閣府 (ha)	870		2,100		2,440		1,910	
	面積割合(三重県)	6.2%	8.0%	19.5%	21.5%	29.6%	28.7%	44.7%	41.8%
	面積割合(内閣府)	11.9%		28.7%		33.3%		26.1%	
熊野灘沿岸 （鳥羽市以南）	三重県 (ha)	253.64	216.39	630.92	611.98	889.35	937.38	5,737.42	3,712.78
	内閣府 (ha)	220		610		860		5,230	
	面積割合(三重県)	3.4%	4.0%	8.4%	11.1%	11.8%	17.1%	76.4%	67.8%
	面積割合(内閣府)	3.2%		8.8%		12.4%		75.6%	
計	三重県 (ha)	1,544.47	1,642.22	4,699.29	4,457.53	7,063.62	6,077.30	15,060.77	11,204.88
	内閣府 (ha)	1,080		2,770		3,290		7,110	
	面積割合(三重県)	5.4%	7.0%	16.6%	19.1%	24.9%	26.0%	53.1%	47.9%
	面積割合(内閣府)	7.6%		19.4%		23.1%		49.9%	

※上表において、「伊勢湾沿岸」及び「熊野灘沿岸」の内閣府の浸水面積を算出する際、内閣府（2012）の公表結果で浸水面積が「10ha未満」となっている市町については、「10ha」として計算している。

南海トラフ地震による津波浸水予測結果（概観）

～東北地方太平洋沖地震との比較～

東北地方太平洋沖地震における青森県から千葉県にかけての6県の浸水範囲面積の合計は561km²（うち宮城県327km²）であった（※1）。今回の津波浸水予測結果（理論上最大クラスの南海トラフ地震を想定した場合の浸水面積）は、その約半分に相当し、宮城県内の浸水範囲面積に匹敵する。

津波浸水面積(km ²)							
三重県(2014)		東北地方太平洋沖地震(※1)					
理論上最大	過去最大	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	千葉県
約280	約230	24	58	327	112	23	17
		561					

※1 「津波による浸水範囲の面積(概略値)について(第5報)」(平成23年4月18日、国土地理院)

東北地方太平洋沖地震の際、津波浸水区域の面積の40%以上は、浸水深2m以上となったことがわかっており（※2）、今回の津波浸水予測結果は、その割合と概ね整合的である。

	津波浸水深区分ごとの面積割合					
	浸水深1cm以上～1m未満		浸水深1m以上～2m未満		浸水深2m以上	
	理論上最大	過去最大	理論上最大	過去最大	理論上最大	過去最大
三重県(2014)	約22%	約26%	約25%	約26%	約53%	約48%
東北地方太平洋沖地震 (※2)	約34%		約14%		約43%	

※2 「東日本大震災による被災現況調査結果について(第1次報告)」(平成23年8月4日、国土交通省都市局)